主要観光地の縁辺部におけるゲストハウスを通したまちづくりに関する研究
～東京都西新井大師周辺地区を対象として～

都市空間生成研究室
1641082　　柴崎　有里

ゲストハウス　　地域資源　　インバウンド
主要観光地縁辺部　　大師周辺地区　　西新井大師商栄会

1.　研究の目的と背景

この研究は、ゲストハウスを通して新たに外国人旅行者が訪れるようになった東京都足立区の大師周辺地区を対象に、ゲストハウスと外国人旅行者、そして大師参道商栄会を対象としたヒアリング調査を行いそれぞれの視点から大師周辺地区の三者の関わりを明らかにするとともに、主要観光地区のゲストハウスと比較することにより今後の三者の関係に良い影響を与えるための地域資源を活かしたまちづくりを考察することを目的としている。

2020 年の東京オリンピックをきっかけに日本への注目が高まるなか、訪日外国人旅行者数が年々増加していること[*1] と旅先での日常への関心の高まりから暮らすように滞在するという宿泊ニーズへの変化[*2]を背景に、今まで外国人旅行者がほとんど訪れることのなかった主要観光地の縁辺部におけるまちの変化を想定したことから、大師周辺地区の三者の関わりを解明したいと考えた。これが研究の動機である。

2.　研究の方法

本研究では、ゲストハウスを通して外国人旅行者が新たに参入することで大師周辺地区における何らかの変化が生まれるであろうという仮説に立っている。これを実証するため、次の順序で研究を進める。

① 大師周辺地区と対象ゲストハウスの現状調査
② 西新井大師商栄会と対象ゲストハウスにおけるヒアリング調査
③ 主要観光地区におけるヒアリング調査

3.　大師周辺地区の現状とヒアリング調査

3-1. 大師周辺地区の歴史的変遷と現状

大師周辺地区は、東京都足立区のほぼ中央に位置し、関東三大厄除大師の 1 つである西新井大師の開創とともに発展し、江戸から現在まで幾多の時代にまたがった新旧様々な店舗が揃う歴史的要素が蓄積されたエリアである。現在、日本中が空前のインバウンドブームを迎え外国人旅行者数が年々増加していること(図 1)と、訪れた土地との多様な関わりをイメージしながら暮らすように滞在する滞在のニーズが変化していることを社会背景に、地域との繋がりを重視したゲストハウスが主要観光地周辺を中心に増加するだけでなく、観光地ではない一般の市街地や、今まであまり注目されていなかった土地にもゲストハウスが進出するようになった。

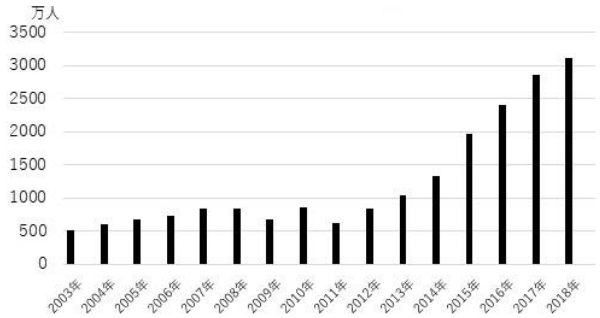

図 1. 訪日外国人者数の推移

その影響を受け、研究対象にした大師周辺地区にも 4 年前にゲストハウスが新たに進出した。そのことから、外国人観光客受け入れによる既存の商店やまちへの負担の増加や観光客が縁辺部観光を積極的に捉えていない場合も予想されるため、観光客が増加することで地域に好循環を生み出すとも限らないことなど、新たな課題が想定される。

3-2. 対象ゲストハウスの概要と特徴

研究対象にしたゲストハウスは、東京都足立区の西新井駅から徒歩 1 分の場所、研究対象地である西新井大師からは徒歩約 15 分の場所に位置する。2015 年 12 月にオープンし、旅を通して新たな出会いやつながりが生まれるきっかけをつくりたいという思いから”東京の下町で世界と繋がる宿“をコンセプトとしている。一か月間を通してほぼ毎日のようにゲストと地域住民が交流できるイベントを開催していること、ローカルツアー（図 2）を通して地域資源やその土地の魅力を伝えていることから、対象ゲストハウスは地域と外国人旅行者を積極的に結び付けようとしていることが特徴であるといえる。

図 2. 対象ゲストハウス主催のローカルツアーの概要

3-3. 西新井大師商栄会におけるヒアリング調査

地域商店の視点からまちの変化に対する意見を得るため西新井大師商栄会にて、10 月 16 日 17 時から 19 時、11 月 6 日 17 時から 18 時半、12 月 20 日 12 時半から 14 時半の計 3 回に分けて対面形式で商店 11 件にヒアリング調査を行った。以前よりもまちを訪れる外国人数の増加を実感し、英語に対する意識の向上がみられるものの、売り上げに関してはほとんど変化がないということであった。むしろ、外国人旅行者のマナーやローカルツアーを行う対象ゲストハウスが訴求できていないことに対してマイナスなイメージを持っていることが明らかになった。今後は、もっと多くの人に訪れてもらい賑やかになることを期待する一方で、マナーによるトラブルの発生や常連客の減少、観光地化することで期待しない方向にまちが変化していく事は避けたいと考えている事が明らかとなった。

3-4. 対象ゲストハウスにおけるヒアリング調査

対象ゲストハウスに滞在する外国人旅行者の視点からまちに対する意見を得るため対象ゲストハウスにて、12 月 19 日 12 時半から 13 時半、12 月 26 日 12 時半から 14 時の 2 回に分けて計 8 人にヒアリングシートを用いて聞き取り調査を行った。想像以上の静かさに寂しさを感じてしまう外国人旅行者もいる一方で、東京都心部にはない小さな商店やローカル感に好感をもち、その土地ならではの歴史に魅力を感じるという意見も得られた。また、ローカルツアーに関しては、地域住民であるフレンドリーなボランティアガイドを導入していることにより想像以上に好評で満足度の高いツアーであることが明らかになった。つまり、ローカルな街並みや体験に加え、旅先での新たな出会いを期待する外国人旅行者にとって、地域住民であるボランティアガイドとの交流が高評価につながる結果となったと考えられる。

4. 主要観光地区におけるヒアリング調査

浅草と上野の間に位置する入谷のゲストハウスを主要観光地のゲストハウスとして縁辺部と比較し、立地によりまちとの関わり方に違いがあるのかを明らかにすることを目的として、入谷ゲストハウスにて 12 月 24 日 18 時半から 23 時、12 月 26 日 17 時半から 22 時の 2 回に分けて入谷ゲストハウスに滞在する外国人旅行者計 17 人にヒアリングシートを用いて聞き取り調査を行った。入谷ゲストハウスを選んだ理由や日本での観光の際に期待することを調査したところ、手ごろな価格とロケーションの良さにより選ばれること、日本の文化の学びや体験をニーズとしていることが明らかになった。したがって、主要観光地区とその縁辺部とでは立地によってその場所に宿泊することへのニーズが異なり、外国人旅行者は立地に関係なく日本文化の学びや体験価値をニーズとしていることで共通しているといえる。

5.結論

これらを総括すると、大師周辺地区の三者の関係は以下のような図で表せる。(**図 3**) 連携が弱く外国人旅行者への思いの不一致から対象ゲストハウスと西新井大師商栄会とでズレが生じ、あまり良い関係を築けていないことが明らかになった。また、対象ゲストハウスにおけるヒアリング調査より、大師周辺地区はローカル体験や出会いをニーズとする外国人旅行者にとって地域観光としての一定の価値があることが明らかになった。したがって、地域とゲストハウス間の連携強化と地域資源の再確認により、ゲストハウスを通した地域価値と体験価値の提供が大師周辺地区の現状改善に繋がると考えられる。

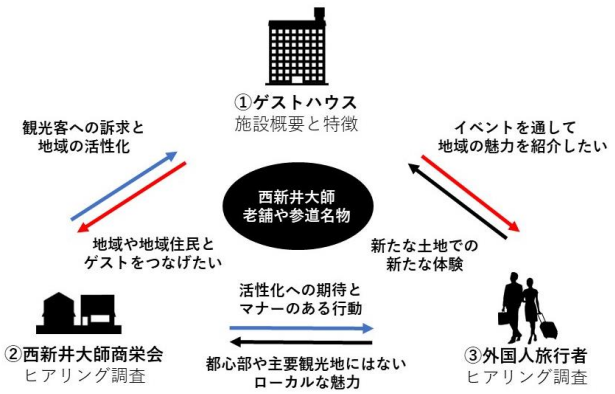

図 3. 大師周辺地区における三者の関係図

注

1) 国土交通省官公庁（出典：日本政府観光庁局），訪日外国人者数統計参考。
2) 「まちのゲストハウス考」、学芸出版、p189−p191、2017 参考。

参考文献

1) 真野陽介，片岡八重子：まちのゲストハウス考,学芸出版, 2017
2) 片桐由希子，梶山桃子，東秀紀：都市部の簡易宿泊型ゲストハウスにおける交流機能に関する研究，観光科学研究 2015，p.61，p.68，2015